

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2018年9月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第597号

暑い夏が過ぎようとしている。今年も広島・長崎で原爆記念式典が持たれた。両方の市長はともに昨年国連で可決された核兵器禁止条約に触れ、ぜひ日本もこの記載国に入るようにとの要請があった。それは参加者の熱い思いでもあっただろう。しかし、残念なことに安倍首相の口からはこれについて一言も触れられることがなかった。なぜそうなるのだろうか。結局は経済のためではなからうか。

「命は食物よりも大切である」ということは単純な真理である。しかしこの逆転に気づかないことが多いのではないだろうか。イエスは40日間の断食の後、空腹を覚えられた。そのときサタンが来て「これらの石がパンになるように命じたらどうだ」と誘惑するが、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」と退けた。(マタイに

よる福音書4:1以下) 命を守るはずのパンが、その逆転が起きると、パンが人の命を奪うことになる。

どこの世界でも経済は欠かせない必要事項である。しかしそれがしばしば命取りになっていることに気づかな

命は食物よりも大切である

関西セミナーハウス活動センター運営委員・所長代行 榎本 栄次



い。イエスは「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えらる」と勧めている。教会のために、信徒のために、宣教のためにと言いながら「明日のことを思い悩み」、「神の国と

している。本当の被害をまともに考えると、計り知れないものになる。ここから何も学ぼうとしない。当初は誰もが「原子力に頼らない未来」を説いていた。しかし「まず再稼働」となっている。「パン(経済)が命よりも大切」という悲しい逆転が起きても気づこうとしない。原発で大もうけする電力会社や財界の声に、被災者の叫びはかき消されているのだろう。

てしまう」為政者たちの本音らしい。広島、長崎で原爆を経験した唯一の被爆国。福島での未曾有の原発事故の悲劇、その修復も全く不完全のままである。そして、福島はもう大丈夫という鳴り物入りでオリンピックに向かおうと

止めたら日本の経済は破綻し

いまこそ「まず神の国と神の義を求める」信仰的決断が求められている。教会行政においても全く同じことが言える。党派制や形式や建前ではなく、今何が問われ、何を守るべき時かを知る知恵が必要である。神の御心に従おうとするとき、ぎりぎりのところで脅しや誘惑がかかる。そのようなとき、「命は食物よりも大切である」という主の言葉に立ち返りたいものである。(日本基督教団牧師)

関東活動センター

●2018年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ 特別企画

「編集者がその本音を語る」第4回
「宣教の課題としての『信仰の二三論』」

東日本大震災の取材で見たこと

ゲスト 元日本キリスト教団出版局編集者 伊東 正道さん

聞き手 日本キリスト教団出版局編集者 土肥 研一さん

2018年6月22日(金)

会場 カフェ・エクレシア(台東区蔵前)

日本キリスト教団出版局で長く編集をされている伊東正道さんに「宣教の課題としての『信仰の二三論』を伺った。聞き手は、同出版局と一緒に仕事をされている土肥研一さんにお願した。

伊東さんは大学卒業とともに、いのちのこば社に入社、クリスチャン新聞記者、出版部編集課長を経て1994年から日本キリスト教団出版局に移り出版局第一課長、『信徒の友』編集主任などを歴任された。2014年に定年退職後も出版局の仕事に携わっておられる。

週刊誌8年、雑誌や書籍など出版関係での延べ20年を振り返って伊東さんは、時代とともに対話してきた自分を「バプテスマのヨハネ」と規

示唆された。

* * *

「編集者」と言っても、キリスト教書店、さらには一般書店に並ぶ、書籍や新聞・雑誌の「編集者」を知る人は少ない。「編集者」自身が「黒子」であることに徹し、出来上がった書籍や新聞・雑誌の記事が「主役」と、「編集者」が思い極めているからでもある。

「編集者」と言っても、キリスト教書店、さらには一般書店に並ぶ、書籍や新聞・雑誌の「編集者」を知る人は少ない。「編集者」自身が「黒子」であることに徹し、出来上がった書籍や新聞・雑誌の記事が「主役」と、「編集者」が思い極めているからでもある。

その中で、伊東さんが、地方教会の現実と信徒の日常生活を、『信徒の友』の取材で見た、と明らかにされたことは印象深い。

「関東フォーラム宗教対話Ⅲ」として2017年7月から始まった特別企画「編集者がその本音を語る」は、企画を推進した戒能信生さんが、「様々な意味で曲がり角に来ていると言われるキリスト教ジャーナリズムの世界、その中で長年編集者として活躍してきた人々を招いて、その経験と知見から、現在の日本の社会、またキリスト教界の状況について率直な批判と提言をしてもらおうという企画」とされた通りだ。

* * *

「信仰の二三論」の克服へのヒント、および二元論を克服した「一元主義」は「原理主義」とどう違うのか、このまともでは、『信徒の友』の「ここに教会がある」の取材で見た日本の地方教会の現実と信徒の日常生活に見る可能性を

特別企画「編集者がその本音を語る」の第1回は2017年7月7日、元日本キリスト教団出版局編集者・柴崎聰さんをお招きし、編集者として、キリスト者として、そして詩人としてのあれこれを伺うことにしていた。しかし柴崎さんは、確かに本音を語っておられたが、そこから「編集者としての本音」を汲み取るのは難しかった。

* * *

ただ、戒能さんがそこで、「キリスト教 ジャーナリズム」

第2回(10月20日)は、

かつて岩波書店編集部におられ、現在は「ふねうま舎」社長の中川和夫さんに「今、構造的な変動の中にある出版界の現状、その中で編集者の役割とは？」を伺った。
中川さんご自身は、電子化が急速に進む出版界の今後についても語ろうとされておられたことを思い出す。
第3回(2018年2月16日)には、『クリスチャン新聞』、雑誌『百万人の福音』などを経て、いのちのこば社出版編集長の根田祥一さんに、「編集者として福音派諸教会の歩みを実見して」を伺った。

* * *

会場を東京・台東区蔵前の聖公会浅草教会の地下にある『カフェ・エクレシア』と定め、参加定員20人限定にしたのも、編集者同士が気軽に会え、互いの本音に触れることが出来れば、との願いから出たもの。

* * *

だが、これからは、1回の出会いを越えた「記者クラブ」のような構想を関東活動センターとして描きたいと思う。
(報告・郡山千里 世界キリスト教情報・主宰)

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度「開発教育セミナー」

「開発教育入門セミナー」

Think Globally Act Locally

「足もと」と「世界」をつなぐ」

関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会

2018年6月24日(日)

会場 京都市国際交流会館

共催 (公財) 京都市国際交流協会



「開発教育とSDGs(持続可能な開発目標)」を考えるオーブンングに引き続き、午前・午後と「SDGsを参加型学習で」、「イスラームを知ろう」の2つのワークショップを実施した。ここでは午後のワークショップについてレポートする。

はじめに、参加者間で自分

とイスラームの関わりについて相互にインタビュアした。身近にシリア出身の住民が生活している参加者があり、私たちとの関わりを感した。その後クイズで理解を深めた。

次に、グループごとに、ムスリムの人々が使っているモノをどのように使用するのか考え、参加者間で分かち合った。初めて見るものも多く、参加者は興味津々な様子で手に取り、身にまよったり、実演したりして和やかにレポートした。この後に紹介されたシリア、アレppoのビデオアフター(HUJEPPOST)の写真と映像は、日常を根こそぎ破壊するものだった。最後に、日本で生活してい

るムスリムが直面している事例について解決方法を考えた。イスラームでは、礼拝・食べ物・服装・教育など、信仰に基づいて生活様式がある。近年食堂にムスリム対応献立を準備する企業が少しずつ増え、ムスリムの社員や来客に好評だという。初めての参加者が多く、多様でわかりやすい教材により理解が深まったという感想が多く寄せられた。

●2018年度 修学院フォーラム「社会」第3回

「民族主義と普遍主義のはざままで」

「旧約聖書から国際平和を考える」

上智大学特任教授 月本 昭男さん

2018年6月30日(土)



今回のフォーラムには、日本を代表する旧約聖書学者で、古代オリエント史にも詳しい月本昭男さんをお招きした。旧約聖書は後のユダヤ教の基礎となり、キリスト教成立の土壌となり、イスラームにまで大きな影響を及ぼした文書である。講師は、これらの宗教が古代イスラエルという弱小民族の遺したこの書から

何を学びとったのかに思いを馳せつつ、戦争の要因になりかねない偏狭な民族主義と、諸民族の平和を希求する普遍主義とが旧約聖書の中で拮抗する模様をあとづけようとした。

旧約聖書の中には、狭隘で偏狭な民族主義的文書と、イスラエルの民族の多様性を容認する文書の両方が併存している。それは旧約聖書の持つリアリズムであり、複眼性でもある。

歴史の初めは、古事記のように自分の国の始まりからではなく、万物、世界の始まりから語られ、普遍的な神の前

で、イスラエルの民の位置が相対化される。

その普遍的な神が、オリエント文化史上取るに足りない一弱小民族のイスラエルを選び、契約し、特別な関係に置かれる。それは、地上のすべての人の祝福の基とするためである。

やがて預言者が興され、不義のイスラエルが裁かれ、イスラエルを滅ぼす国も裁かれる。預言者は、裁きと滅びだけでなく、救済をも告げる。救済は、審判と同様にイスラエルだけでなく地上の諸国民にまでおよぶ。ここでもイスラエル中心主義は払拭しきれないが、旧約聖書全体としては、民族主義から普遍主義への方向性が明確である。

この方向性は、新約聖書に引き継がれ、民族主義が克服されていく。イエスは、エルサレム中心主義を打破し、パウロは、ユダヤ人もギリシヤ人も無い、と言った。この民族主義を克服する思想をいかに醸成しうるかが、今後の課題である。

この発題の後、多方面からの質疑応答がなされ、豊かな話し合いの時となった。その

(次ページに続く)

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話V**

礼拝の話し方ワークショップ
(ステップ・アップ講座)

「礼拝の言葉を豊かに」(全6回)

講師：友野富美子さん(経堂緑岡教会副牧師、元声優)

日時：2018年9月～2019年2月
①9月4日、②10月2日、③11月6日 火曜 14:00～16:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会
参加費：1回 1,200円

■**2018年度聖書を読む講座I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第1期)(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑥10月9日、⑦11月13日 火曜 18:30～20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホール222号室

参加費：1,200円/学生500円
共催：早稲田奉仕園

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」II
(大正篇全7回)

講師：戒能信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第5回「賀川豊彦 その生涯と贖罪愛の信仰」

日時：10月11日(木)14:00～16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1回500円

■**2018年度関東フォーラム 宗教対話III**

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本キリスト教アカデミー**
代表理事 小久保 正

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

「編集者がその本音を語る」第5回
ゲスト：市川邦雄さん(元・日本YMCA同盟出版部編集者)

聞き手：武田利邦さん
日時：10月19日(金)18:30～20:30
会場：カフェ・エクレシア(台東区蔵前)
参加費：1,500円 定員：20名

◆**関西セミナーハウス**

■**第6回「きらら山荘 薪能」**

演目「屋島」(協力 林能楽会)
出演：林宗一郎さん他
日時：10月5日(金)17:30開演
観覧料：3,000円 定員：100名
※雨天時は室内蠟燭能

■**月釜 清心会**

日時：10月14日、11月11日
日曜 9:00～15:00 受付
於：関西セミナーハウス
年会費：4,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2018年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」
座長：榎本栄次さん(日本基督教団牧師)

日時：⑥10月4日、⑦11月1日
木曜13:30～16:30(全8回)

会場：関西セミナーハウス
参加費：1回1,500円 学生500円
(抹茶含む)

■**2018年度修学院フォーラム「社会」**

第4回<宗教と戦争を考えるー6>
「宗教改革者の戦争観」

講師：村上みかさん(同志社大学神学部教授)

日時：10月6日(土)13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：2,300円、学生1,000円
(コーヒー付)

■**2018年度開発教育セミナー**

中で「旧約聖書は、なぜ狭隘で偏狭な民族主義的文書を遺したのか？」との質問に対し、「それは旧約聖書の優れた知性であり、矛盾を遺して読む人に立体的に考えさせようとしたと思われる」と答えられたのは、印象的であった。連続講話を希望する声が多かった。

第4回「新しい日米外交を切り拓く～沖繩・安保・原発・TPP」

講師：猿田 佐世さん((特活)「新外交イニシアティブ」代表)

日時：10月13日(土)16:00～14日(日)12:00

第5回「今、外国人研修生は～私たちの社会と人権」

講師：早崎 直美さん(RINK すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク事務局長)

日時：11月13日(土)16:00～14日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：10,500円(1泊2食込)

■**2018年度修学院フォーラム「いのち」**

第1回「老いの日をいかに生き、支えるかー2」

「往きの医療 vs 還りの医療ーわたしたちはどんな死に方をしたいのか?」

講師：島田 宗洋さん(救世軍清瀬病院名誉院長)

日時：11月10日(土)13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：2,300円、学生1,000円
(コーヒー付)

※日程が変更になりました。

賛助会費・寄付金報告

2018年7月1日～7月31日
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

寄付金
中井 博雅 10,000
毛利 亮子 3,000

神学生交流プログラム寄付金
中井 博雅 10,000
松下 起子 1,000
加藤 真規子 3,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金
廣田 吉久 10,000
片桐 ユズル 5,000
中井 博雅 30,000
菊岡 克彦 10,000
京都音楽教育の会 30,000
武藤 高司 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

竹中 百合子 5,000
村上 みか 10,000
小山 稔・初美 3,000
網野 俊賢 5,000
丸山 まり子 5,000
山本 知恵 5,000
植村 敏子 5,000

寄付金

日本基督教団西が丘教会 7,000
堀口 こみち 10,000
村上 みか 10,000
修学院一日アシュラム 10,000
大谷 光真 5,000
山本 知恵 5,000
東 千代 2,000
遠藤 勇 5,000
織田 雪江 3,650

以上、感謝をもってご報告申し上げます。